

広 報

ちば市老連

VOL.22
2005.2



新春座談会

「地区老連会長 大いに語る」



社団法人 千葉市老人クラブ連合会

詩 梅の実に寄せて

中央地区老連女性委員長 林

つね

二月三月花盛り

うぐいす鳴かせたこともある

たのしい時も夢のうち

枝から払い落されて

近所の町へ持ち出され

何升何合はかり売り

もとより酸っぱいこの体

塩につかってからくなり

紫蘇に染まって赤くなる

三日三晩の土用干し

思えばつらいことばかり

これも世のため人のため

しわは寄っても若い気で

小さい君らの仲間入り

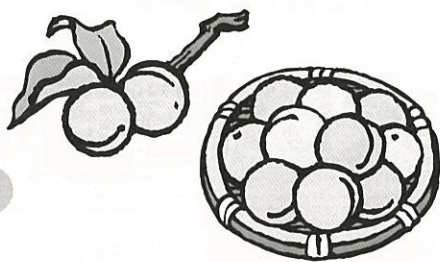
運動会にもついてゆく

まして戦のその時は

なくてはならないこの体

梅は悲しいさだめなの

食べてもらって華になる



■ 迎 春

■ いきいきと暮せる まちの実現に向けて

■ 新春座談会「地区老連会長 大いに語る」

■ 全国老人クラブ大会 千葉大会の感想記

■ 事務局だより

■ 文 芸

千葉市老人クラブ連合会会長
長谷川 省 悟

千葉市長
鶴 岡 啓 一

花見川区老連花見ヶ丘大樹会会長
渡 辺 正 夫

緑区老連鎌取平成クラブ
三 宅 芳 江

若葉区老連千城地区老連会長
香 取 敬 三

美浜区老連東建検見川マンション寿会
富 田 陽 子

中央区老連 女性委員長
山 田 玉 枝

稲毛区老連野村園生シニアクラブ
半 澤 和 雄



迎春

千葉市老人クラブ連合会 会長 長谷川 省 悟

平成十七年の新春を迎え、会員皆様のご健康とご多幸をお祈りし、謹みて新春のお祝詞を申し上げます。

昨年十一月の第三十三回全国老人クラブ大会千葉大会では、皆様に変なご苦労をおかけしましたが、参加、歓迎などをふくめて皆様のご協力が大きなうねりとなって大会を盛り上げて頂き、参加された全国の皆様に感謝されつつ盛会裡に終えることができました。有難うございました。

ここで示した千葉市老人クラブ連合会会員の偉大なる結束力を本年六月に予定されております、関東甲信越静ブロックリーダー研修会でも発揮し、更なる躍進を目指したく、重ねてのご協力をお願い申し上げます。

私は、常日ごろ老人クラブ活動の原点は単位老人クラブにあると、単位老

人クラブ活動重視の理念を唱えておりますが、この理念は間違っていないかと確信しております。

それは、このたびの全国老人クラブ大会の七つの研究部会を回った中で、全国から集まった会員が「会員増強の要（かなめ）」は、単位老人クラブ活動の成否にある」と異口同音に言われていることから信じられます。

昔から、単位老人クラブは老連の土台であり、単位老人クラブ活動が活発であれば、県市町村老連は活性化されると言われ、単位老人クラブの育成、強化に努めてきました。

千葉市老人クラブ連合会でも、連合会設立当時（昭和三十七年五月）から延々と活発な活動を続けられている単位老人クラブがいくつもあります。

本年は、干支の酉年です。酉（鶏）

は、一日の始めの時を告げ、また、飛躍を告げる動物であると言われているとします。

千葉市老人クラブ連合会も酉年にちなんで単位老人クラブの活性化を図り生き生きとした活気のある老人クラブ連合会になるよう望んでおります。

私は、日ごろいつも心にこんな高齢者になりたいと願っております。

一、清潔感のする人
二、仲間を多く持つて気持ちの若い人
三、笑顔とおしゃれと感動を忘れない人

四、人の世話をよくし地域に役立つ人
五、ぐちをこぼさずこせこせしない人
六、スポーツや歌の好きな人
七、趣味を広く長く楽しむ人
八、子どもや孫などに喜ばれる人



いきいきと暮らせるまちの実現に向けて

千葉市長 鶴岡 啓一

この度、社団法人千葉市老人クラブ連合会の皆様によります広報誌「ちば市老連（第二十二号）」が発行されましたこと、心からお喜び申し上げます。

また、昨年中は、市政発展のため多大なるご理解・ご協力を賜りましたこと、誠にありがたく、厚くお礼申し上げます。

昨年は、地方分権改革が一段と加速され、都市間競争が一層厳しさを増す中、本市は、人口九十二万人を擁する政令指定都市として着実な発展を続け、新たな子育て支援や高齢者の生きがい対策を推進するとともに、「美浜区地区ホール・保健福祉センター（仮称）」や「千葉アイススケート場」の整備に着手するなど、ソフト・ハード両面のバランスのとれた施策の展開を図り、多くの成果をあげることができたものと存

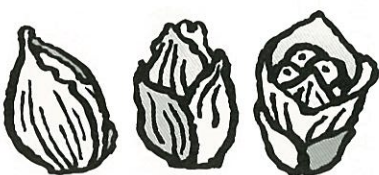
じます。

迎えた本年は、かつてない厳しい財政環境にありますが、市民福祉の一層の向上と市域の均衡ある発展を目指し、最終年次となる「新五か年計画」の着実な推進を基本に、市民の視点に立ち事業を厳選し、本市の将来像の実現に向けた施策の展開を図って参ります。

特に、「環境問題への対応」「少子化対策」「高齢社会への対応」「都市イメージの確立」「地域経済の活性化」「都市再生への取り組み」「情報化の推進」の七分野を、引き続き重点的に取り組むとともに、安全・安心のまちづくりについても充実を図るほか、新たに策定する行政改革推進計画の初年度として、これまで以上に創意工夫を凝らし、あらゆる分野で行政改革の一層の推進に努めて参ります。

私は、本年も、お子さんから高齢者の方々まで、九十二万市民全ての皆様が、いきいきと暮らせるまちづくりに全力を傾注して参る決意でありますので、旧に倍したご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

おわりに、社団法人千葉市老人クラブ連合会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝・ご多幸をお祈りいたします。



新春座談会

「地区老連会長

大いに語る」



とき

一月二十四日午前十時

ところ

千葉市ハーモニープラザ

座談会のテーマ

- (一) 全国老人クラブ千葉大会で得たもの
- (二) 老人クラブの現状と課題
- (三) 今年の抱負

岩崎

お忙しい中、お集りいただきありがとうございます。この新春座談会「地区老連会長大いに語る」は、市老連としてはじめての企画だと思えます。座談会の内容は、二月発行の「ちば市老連」22号に掲載しますので、今日は急遽の意見・感想をお願いいたします。

はじめに長谷川会長からごあいさつをお願いします。

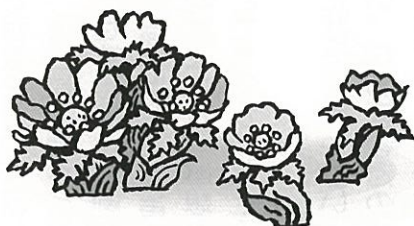
長谷川

早朝から、お集りいただき、ありがとうございます。二月発行の広報紙の目玉とする座談会であるが、昨年十二月の指導者研修会において、前千葉日報社長 山本 幸さんの講演の中で、老人クラブの活性化をはかるには広報活動が重点になるというお話があったが、内容について記事を並べるだけでなく、新しい・面白い・人の目をひく企画が必要との話であった。

歴史ある、我が市老連広報紙が、今回の座談会をメインとした広報紙であるよう、また座談会が成功裡に終わるようお祈りします。

出席者

長谷川省悟	市老連会長
岸岡 泰則	市老連副会長（広報部担当）
古山 昇	市老連事務局長
板倉 清隆	寒川地区老連会長
藤森 清彦	若葉区老連副会長
花島一二三	こてはし地区老連会長
伊藤 忠房	稲毛地区老連会長
徳田 重雄	誉田地区老連会長
金巻 弘	高洲地区老連会長
岩崎 榮則	司会・広報部長
工藤 和正	広報部副部長
天羽 喜公	広報部員
千葉 照子	〃
國府 常藏	〃
得重 一枝	速記・事務職員





一、全国老人クラブ

千葉大会で得たもの

岩崎

これより本題に入っていきたいと思いますが、昨年十一月、開催された全国老人クラブ千葉大会では、皆さんは係員、研究部会、総会、記念式典などに参加された訳ですが、大会で感じたこと、得たものなど、お話し下さ

い。

伊藤

私はガイドを担当したが、参加者がとても理解されていて、私たちに感謝され、皆さんが老人クラブをとて理解されていることがわかった。今、市老連ではいろんな問題がある。我々は三角形の底辺であるが、頂点でもある幹部の方で現状を打開してほしい。

板倉

大会には、緊張感でつかれたが、全国からの参加者にとても好感をもてた。皆さん協力的で戸惑ったことはなかった。地区の参加者も良かったという意見が多い。

徳田

私は、第七研究部会の受付をやり、二日目は、バスの入場整理をした。初めはバス三十台ということであったが、実際には一〇〇台来た。何とか駐車できたが、事前に正確な台数の報告がほしかった。

藤森

第四研究部会に参加した。若葉区は二日間で約一二〇名参加した。アンケートをとったところ八一名より回答があり、全体的には二日間通して成功であった。一つだけ強烈な批判があった。それは、大会初めの県老連音頭の踊りで若葉区は最後尾であったが、入場する前に終わってしまった。一生懸命練習し、ゆかたを新調したので不満も大きい。

金巻

千葉駅前でお迎えの役をやった。順調に行き文化センターへ引きあげた後、山梨県南アルプス市のバスが着き、もう一度行ってくれと言われた。もっと連絡を密にしてほしかった。内容については、老人クラブが理解できて良かった。

花島

主にやったのは、第七研究部会の演芸であった。こてはし地区で回数を重ね練習してきたが、高齢者のこと、当日具合悪くピンチヒッターが出たり、お見せするような劇ではなかった。全体的には成功裡に終わったと思う。翌日、宮崎県の人と同席になり、感想をきいてみた。手際良く、とても良かったと言っていた。

岩崎

私は三日間、出迎えばかりやっていたので中の様子はわからない。他の区老連の意見では、来賓のあいさつが長すぎたとか、全老連の研究部会の報告はもっと聞きたかったとあった。意見を今後に生かすべきと思う。

板倉

踊りが担当であったが、県老連がなかなか来なかった。

岩崎

共催というのは、とてもやりにくいと思っただ。全体的には良かった。

長谷川

実行委員会の解散はまだしていない。十一月に全国会長会議があったが、皆、千葉大会はとても良かったが、特に千葉市の係員の対応が良かったと言っていた。

式典に女性の参加者が少なかったのは残念という意見も多く出た。踊りは県老連と合同でやったので指示者がはっきりしていなかった。責任者の所在がはっきりしていなかったことは、大きな反省点である。(所用のため退席)

岩崎

最後に感動的な裏話を紹介しますと、記念式典が終わりに近づいたなかで、中央区のある係員が「岩崎さん、みんなで見送りました」

ようよ」とい、「会長と話してみても下やうよ」と、念を押すんです。しかし、会長は壇上。そのとき私は予定外の素晴らしいアイデアを生かすべきだと思い、「私が責任を持つのでやりましょう」と言っって係員の人たちにお願いして回った。

記念式典が終って参加者が出口に出てきたとき、係員が両側に並んで「ご苦勞様、ありがとうございました。また再会を」と頭を下げ、参加をねぎらった。参加者は「おつかれさま、大変でしたね。来年会いましょう」と、一体感で目頭がうるんだ。企画にないアイデアによる見事な演出であった。いい勉強をさせてもらった。では次のテーマに移りたいと思います。

一、老人クラブの現状と課題

岩崎 みなさんは地区老連会長として日頃、大変なご苦勞をされております。予算が少ない。会員の高齡化及び減少など悩みはつきない。一昨年から地区老連の脱退が相次ぐという最悪のシナリオが止まらない現状を共通認識しながら、老人クラブの現状と課題について迫りたいので忌憚なく話して下さい。

花島 あまり良い話はなく、正月もずっと考えていた。ある地区老連は、昨年脱退したが、会員の中では私たちは脱退するつもりはなかった、どうしてこうなったかと言っている。

今回、脱退を希望している地区老連も下部には話がなく、地区老連会長は、皆に諮った

ところ会長に「一任すると言われたと言っている。もっと早く改善されなかったのか。何が原因なのか。せつかく、社団法人として独立し、千葉市老連が飛躍してこういううち、どんどん会員が減る。」

理事会や会議で討議されたかわからないが、残念でならない。皆、不信に思っている。以前は二三、〇〇〇人いた会員が、現在は、



一三、〇〇〇人である。新年度にあたり、方向づけしなければならないと思う。

市にも責任があると思う。四〇年前、ある議員が議会のたびに老人クラブ補助金について意見を言っていたが、当時のまま、現在まで引き続いている。脱退クラブにも、同額の補助金が出ている。加入クラブは、会費を納めねばならない。補助金に差をつけるべきだと思う。以前、市にも話をした。市も目覚めてほしい。方向づけて進歩すべきだが逆行している。老人が増えてるのに、会員はどんどん減っている。何とか打開しなければならぬ。

岩崎 はじめて聞く内容や貴重なご意見ありがとうございます。美浜区は会員が増えていますが、その辺の事情について、どうぞ。

金巻 区としては増えているが、真砂地区が増えているのであって、高洲地区は減少している。一六クラブあったが、現在、一〇クラブである。昨年、脱退したクラブは、稲毛区老連東地区で五〇〇名余りが脱退した理由を市老連へ質問したが回答がなかった。会長は一方で会員増強を叫びながら返答もない。そんな会はやめた方が良く脱退した。ネーミングも問題あり、補助金のこともある。脱退クラブは、そのまま地元で活動している。

藤森 若葉区老連では、白井地区が大きく減った。原因は解散クラブが多い。全体的には、会員数は横ばいである。委員会を作り原因究明などつきつめて話し合っべきである。

魅力ある老人クラブでないとうしろしようもない。議員の特権で始めたことでなく、ゼロから話し合い、スタートしませんか。

徳田 後継者がいないのが大きな原因である。私は地区会長になって二年になるが、それまで地区の会議はなかった。今は毎月一回やっているが、初めの頃は抵抗があったようだが、今はうまくいっている。新規加入者がいない。やはり魅力がないのではないか。地区によっては高齢化が進み、市老連の事業にも協力的でなくなっている。

板倉 先ほど会長の話で広報紙の利用とあったが、地区でやろうと思っている。また、後継者がいないのが問題である。女性の協力を得た方がよい。

工藤 稲毛区老連東地区の脱退の原因は、私も何度か相談を受けたが、市老連の行事への動員が強制されること。もうひとつは人の問題である。

千葉 東地区脱退の話が急に出て驚き、中川会長と行った。大会等、動員を強制されるということだが内容が良く伝わっていなかったと思う。

ただ割当人数を出せというだけでは納得しないと思う。六川地区は七クラブあったので何とか引き止めたかったが総会では話がなく、理事会は欠席され、六月に話が出た。とうしろようもなかった。

岩崎 脱退する場合、クラブの同意書が必要ですが、ありましたか。

千葉 東地区は、単位クラブ会長連名の書類が出された。

伊藤 今、四地区しかないので奮闘努力しなければならぬ。民生委員を利用して会員増強をしたい。市にも要望書を出したりして、協力を得るよう市老連幹部もがんばってほしい。

花島 一つの組織に入って事業やるには、動員は仕方ないことだ。組織の一員としては協力すべきだ。

二月に研修会やるが人を集めなければ講師に申し訳ない。だから、人を集めるには飲物や弁当、手みやげを出すしかない。

岩崎 なぜ脱退なのか、その原因を究明し組織的に対応しなければ不信感を招くのではないか。若葉地区老連は組織対策委員会があると聞いていますが、岸岡さん、お話ししていただけませんか。

岸岡 組織対策委員会を作った。解散クラブがあったら、皆で何とかくい止めたい。もう一つは、新しいクラブを積極的に作ろう。始めて二年になるが脱退クラブあり、また新しいクラブありで、結果はトントンである。

あるクラブでは、役員会で決定した後、地区老連会長へ報告が来る。決定してからではどうしようもない。もう一つのクラブは解散が決まっていたが、お願いに行き、もう一度話し合うことになり、会員に賛否をはかった。解散反対が七割あったが、顧問の人の意見で解散になった。

脱退の理由は「高齢者なので、うるさい事はさせて、補助金ももらわず、楽しくやろう」と、今までどおりまとまってやっている。動員は負担になるが、逆に出られるという意識を持てば良いと思う。見返りがなければという意識が強いので、意識改革が必要。

金巻 民生委員が副会長になったら、若い人が六人入って来た。若い人が入ると中味が全然違ってくる。年代により魅力も違っしスレもある。

工藤 民生委員は老人クラブに協力してほしいが、現状は逆である。民生委員に協力を得た方がよい。

藤森 民生委員が三名いて、三名ともクラブ会員である。あまり勧誘していないが□□ミで入ってくる。体験入学してもらい、体験した人は必ず入会する。自治会では、若松台ふれあい広場は老人会ではあらずと判断している。

広報には、相当力を入れている。会員の中では当然、不満が出る。その時は、必ず話を聞きに行く。無理には引き止めない。「原因と対策は早く」が重要である。

岩崎 いま、藤森さんが言われましたことに結びついていと思う。みなさんのご苦労や熱意が伝わってきた。広報部では、次号は単位クラブに光りを当てて「私たちのクラブ自慢」を取り上げたいと思っている。そこではこんな活動があるんだ、新しい発見があると思う。

最後に、みなさんから今年の抱負を伺いたいと思います。

三、今年の抱負

花島

いつも言っているが「家にこもらないで出て来ましょう」を徹底していきたい。外に出て、災を福に改めて。各大会は、市老連でなくては出来ない。大いに協力して外に出よう。老人クラブ会員は女性の方が多い。活動の中心は女性。男性は線路を敷いてあげれば良い。女性を大事にする。

金巻

花島さんと同じ考えである。健康に気をつけようをスローガンにしている。バランスの良い食事・適度の運動・健康面のPRをする。

藤森

健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりをモットーに行きたい。「井の中の蛙」では困る。他のクラブとの交流を通し、輪を作っていきたい。

昨年は、他県から七つのクラブが若松台ふれあい広場を訪れた。いろいろ勉強できた。

徳田

暇をおしらず、各クラブ会長が働きやすいように指導していきたい。

國府

従来、会員の増員をしようと歩いていたが入会がなかった。広報二〇号、二一号を持って歩いたら二クラブ増えた。

工藤

前会長から引き継ぎ六年目である。民生委員の協力が大きい。家にこもらないで外に出て来るよう勧める。

岩崎 事務局長どうぞ。

古山

何とか大会を成功させたいとやってきた。脱退が多いのは、市老連のあり方が問題かもしれない。何とかみんなで力を合わせて良い方向へ持って行きたい。

千葉

稲毛区女性委員会では、サークル活動を四つ持っている。それを利用して増員を働きかける。

板倉

生き生き体操を広め、健康増進、会員増強につとめる。

天羽

若い会員が増えたので、新しい会長を見守っていききたい。

伊藤

脱退が増えないよう努力する。グラウンドゴルフをやっている。年二回大会をやる。グラウンドゴルフを利用して健康増進と会員増強に役立てる。

岸岡

切実な良い意見を多く聞いた。六〇代、五〇代の若い人が関心を持つよう後継者を養成するような老人クラブ大学を作りたい。資格の取れる大学にしたい。教育が大事と考える。

補助金の問題だが、行政は根拠があつて出していると思うが、未加入クラブに出していることについて、当局の説明を聞きたい。新聞によると一六二億円がホームレス生活保護補助で、市・区老連・単位クラブへは一億円位であると思う。

社会的に一生懸命やっている高齢者に光りを当ててほしい。

岩崎

広報紙は年二回しか出せないのでは本来

の広報の役割を果たせない。「忘れた頃、手元に届く」会員の率直な感想だ。改善が必要です。

予定した時間が過ぎてしまいました。この座談会では、本音で、前向きに話しができたことに、老人クラブの可能性を感じました。話し合う、信頼関係のなかで、役員の姿勢を示しながら新しい流れをつくるのが、いま求められていると思います。

みなさんのご協力に感謝し、一層のご活躍を期待申し上げて座談会を終わらせて頂きます。長時間ありがとうございました。



全国老人クラブ

千葉大会の

感想記

大会は老人パワーが花ざかり
笑顔と感動がよせる波に
元氣印がひろがり
余韻はいまなお

広報部長

全国の仲間の活動に学ぶ

花見川区老連花見ヶ丘大樹会会長

渡辺 正夫

私は、大会第一日目に開催された研究部会の第三部会に参加した。
テーマは「老人クラブの広報と加入促進の展開」。

各クラブから会員拡大のためのサークル活動の充実、広報によるPR、自治会や行政と一体となった取り組みなどの具体的な活動が報告され

た。

これらは共感する事も多く今後の活動に活かしていきたいと思う。

それと同時に、毎年解散するクラブがあり共通しているのは、役員、特に会長の引き受けてが居ないケースが多い。

その中で某クラブから、会長の任期を一年とした事で解散の危機を脱したと言う報告があった。

今後我々も、幾つかの手立てを含め考えていきたいと思う。

全国老人クラブ千葉大会を

成功させて

緑区老連鎌取平成クラブ

三宅 芳江

友愛とは人と人との結び合い

今回千葉市に於いて開催された全国老人クラブ大会も無事に幕が下りた。会員が一生懸命頭を寄せ合い、語らい合い其のプロセスが大きな事を成し遂げた喜び。皆の胸にわく喜び。思いがけない出会いもあった。人々は楽しく語り合い男女の垣根がこわれ、生命の共感を覚えた集いであった。皆明るくきらきら輝いていた。私達の若い頃は男女別々、今は男女共同参画。つくづく隔世の感があった。

メインテーマの創造と連帯の輪を広げて心豊かな二十一世紀をーの思いが少しでも参加者の



方々に感覚的に伝わったことと思う。来年は又「関東甲信越静ブロックリーダー研修会が行われると聞いた。此の様な出会いが出来る場や機会を大切に、もっともっと広がっていったら素晴らしいと思った。前進あるのみです。友よいつ迄も幸いなれかしと祈る。



第三十三回

全国老人クラブ大会に参加して

若葉区老連千城地区老連会長

香取 敬三

千城地区老連では、老人クラブの活動について生きがいと健康づくりをモットーに仲間づくりを進めています。私は第一日、第七研究部会演じる「創作発表活動に参加。創作舞踊「宗吾吹雪」（千葉県成田市）、音楽劇「思い出の記」（千葉県市川市）の踊りには感動を覚えました。健康第一とし、ボケ防止や、地域との友愛活動を大切に仲間づくりになれば幸いです。研究部会の効果があったと思います。

第二日の総会・式典は「明るく・楽しく・元気よく」の表現がピッタリのすばらしい大会でした。本年も各地域において健康、友愛、奉仕をモットーに生きがいと健康づくりに活動を展開し、仲間づくりに活躍をしたいと思っています。



第三研究部会「老人クラブのPR（広報）と加入増強の展開」に参加して

美浜区老連東建検見川マンション寿会

富田 陽子

第三研究部会は幕張メッセ国際会議場二階コンベンションホールBを会場に、北海道から沖縄まで二七〇余名（内千葉県内約一四〇名）の参加者で十時三〇分から十六時まで熱心な研究会が行なわれました。

研究発表は①「会誌で広がる交流の輪」（栃木県宇都宮市雨情寿会副会長、会誌『あの町この町』編集人 川田作子氏）②「広報で種を蒔き、木曜茶論で育てる加入促進」（三重県久居町老人クラブ連合会会長 山川和男氏）③「名称変更で会員増、サークル活動で魅力ある活動に！」（埼玉県川本町生涯学習クラブ福寿会連合会会長 吉野眞三氏）④「対策委員会を設置し、会員増強を図る」（青森県むつ市老人クラブ連合会会長 伊藤三郎氏）⑤「新しいクラブの結成、運営に地域と協力して」（北海道斜里町老人クラブ連合会事務局長 三宅清次氏）の五件。

川田さんの発表では「お金をかけずにすべて手作りで」をモットーに、自由な内容と形式で「お話しするつもりで二行でも三行でも」と呼びかけ、B四判二つ折りの会誌には毎回五〇％以上が投稿。スポーツクラブ他のクラブ活動や

行事などの記事を加えて年一回発行。この会誌を通して会員のコミュニケーションが深まり、会員入会にも一役の由。八人の班長が投稿を「班だより」としてまとめ、最後に製本化する以外は、原稿点検、割付け、ワープロ化、印刷まで川田さんお一人でごなされるパワーと能力に圧倒されました。

山川さんの発表では毎年広報二回、特集号一回を発行し、会員外に行政関係や地域の人々、クラブ未加入者などに広く読んでもらい、老人クラブのPRに努めている由。特集号「たのしく健康づくり」では、平成十四年度に健康づくりアンケートの集計と有識者の意見に基づき解説を掲載し、福祉、医療、介護関係にも配布。これは今後も五年毎に行う予定とのこと。また、毎週開催の木曜茶論では新設クラブの動向把握、休会や解散するクラブの対策に役立つ由。広い人脈の獲得と活用、ユニークな企画・運営の妙に敬服しました。

吉野さんの発表は解散寸前となったクラブを、町長の助言を得て「名称変更」「サークル活動の新設」で大変身。会員増強と活性化を図った実践報告で大いに参考になりました。

伊藤さんからは対策委員会を設けて未加入者の加入を、三宅さんからは自治会に呼びかけ地域と協力して全自治会の老人クラブ設置を図った生々しい実践報告がありました。

会員増強、後継者育成、親しみ読まれる広報誌は共通の切実な課題だけに、各発表毎に活発な質問が出されました。

助言者の木原孝久先生（住民福祉総合研究所主宰）からは、会員に魅力のある広報づくりや無理なく会員増を図るコツなどについて、五人の発表の講評を加えながらご自身の執筆、全老連発行の『仲間づくり九つの秘訣』も引用して、具体例をあげながら納得いくご助言を頂き、充実した研究部会でした。



第三十三回 全国大会を終わって

中央区老連女性委員長 山田 玉枝

二日間とも晴天に恵まれ、感動の中、無事に盛大にこの大会を終わる事が出来ました。私達は一致団結して、全国から三千五百余名の会員

を迎え、分科会、式典と二十一世紀に記念すべきこの大事業に携わることが出来、大変嬉しく思っております。

私は係員として、接待の役割を受け、落ち度のないように気遣いをし、立派な先生方をお迎え致しました。その間に参加した分科会では、今悩んでいる会員の減少について、又会員に対するリーダーとしてのこれから先の指針を示していただき、大会の必要性を今まで以上に感じました。

みんなの心を一つにする大会。「ゆとり・安らぎ・うるおい」のある都市への一助となるべく前進する事を新たに誓った大会でした。

苦労苦心の広報誌と 加入促進事例

稲毛区老連野村園生シニアクラブ

半澤 和雄

三二七人の方が参加されました。十一月十日全国老人クラブ大会第三研究部会「老人クラブのPR（広報）と加入促進の展開」が幕張メッセ国際会議場で開催され、北海道から沖縄までの方々が、宿泊しバスを仕立てて千葉の会場に集い研究しました。

単位クラブの会誌「栃木県宇都宮市雨情寿会

童謡で有名な野口雨情の旧居がある町で会誌名は「あの町この町」、とても味のあるネーミングです。年一回B四判二つ折り四八ページで

発行し、昭和五七年ガリ版刷りの作文集から始まりました。副会長お一人で作製している労作で、会員の半数以上の方が投稿し、会員同士をつなぐ糸となり、会誌を通じて口コミで入会する方も出てきています。

市老連の広報誌「三重県久居市（ヒサイシ）

年二回の定期発行は、会員の投稿に重点を置き、市関係機関および自治会長や民生委員にも配布し特に老人センターや公民館には部数を多く置くようにしています。特集号「たのしい健康づくり」は年一回発行し、今年は会員全員に健康づくりアンケートを実施し、集計と解説を加えて掲載し、福祉・医療・介護の関係者にも配りました。会員の加入促進は広報誌で種を蒔いています。

加入促進の事例発表では、埼玉県川本町生涯学習クラブ福寿会の「老人会睦会」を名称変更して二三のサークル活動クラブを新設し、自分にあった自分達が楽しめるクラブ作りで会員を増やしました。青森県むつ市老連では対策委員会を設置し非加入者や配偶者加入を積極的に勧め、未組織地区には全面支援をし結果を生んでいます。北海道斜里町老連では各自治会に老人クラブの結成を呼びかけ「地域の中の老人クラブ」「地域に役立つ老人クラブ」として資金・会場など自治会からの便益を受けられるようになりました。

各地の特性や問題点を、一歩一歩努力し解決し具体的な方策を実施している研究発表には、感激と新たな意欲が沸いてきました。

お元気ですか

今年もよろしく
お願いいたします



新年会

事務局だより

千葉の親子二代夏祭り

八月二二日、中央公園周辺で開催され、今回は第二九回である。当会から約三〇〇名が参加し、お揃いの浴衣で「親子二代千葉おどり」をみんな元気いっぱい楽しそうに踊った。

全国健康福祉祭ゲートボール 交流大会出場チーム選抜会

九月一六日、青葉の森スポーツプラザで開催した。結果は次のとおりで、上位二チームが今年一一月開催される福岡大会に出場する。欠場の場合は順次繰り上がる。

優勝 若松台万年青会（若葉区）
準優勝 亥鼻千葉寺（中央区）
第三位 誉田好友会（緑区）

第十回グラウンドゴルフ大会

九月二九日、青葉の森スポーツプラザで開催した。朝から天気が危ぶまれたが、やはり途中雨になり二回戦で終了した。成績は次のとおり。

団体

優勝 大宮台和楽会A（若葉区）
準優勝 誉田B（緑区）
第三位 稲毛五丁目寿会（稲毛区）

個人

男子 優勝 松場 正敏（生浜地区）
準優勝 桜庭 栄（中央区）
第三位 堀 美木夫（生浜地区）

女子 優勝 平岩 静子（千城地区）

準優勝 豊島 しげ（北地区）

第三位 真田 文子（稲毛地区）

第二五回芸能大会

十月八日、千葉市市民会館大ホールで開催。各区老連からの代表三八チームが日頃の練習の成果を発表した。審査の結果は次のとおり。
市長賞

みのり会すみれコーラス（花見川区）

市議会議長賞

睦会（美浜区）

市社会福祉協議会長賞

若寿会（若葉区）

市老連会長賞

桜木町長寿会A（若葉区）

第三回スカイクロス大会

一〇月一三日、川鉄体育館で開催。一九九七年に創案された「面白くて愉快的な生涯スポーツ」で全国に広まっている。

今回、一九チーム九五人が参加。昨年よりも一段と技量も向上し、接戦となった。結果は次のとおり。

団体

優勝 大宮台第一和楽会（若葉区）
準優勝 白旗（中央区）
第三位 若松台ふれあい広場（若葉区）

個人

男子 優勝 羽田 勉（千城地区）

準優勝 長谷川 実 (千城地区)

第三位 増田 定義 (白旗地区)

女子 優勝 米田 久子 (真砂地区)

準優勝 卯田 とく (蘇我地区)

第三位 大塚 元子 (白旗地区)

第一七回

全国健康福祉祭群馬大会

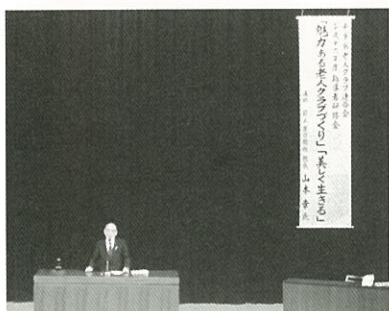
一〇月一六日～一九日群馬県で開催された。

千葉市は一八種目に参加し、市老連からゲートボール、囲碁、将棋、社交ダンス、シンボジウムへ出場した。選手団一四九名は前日の一日貸切バス四台で群馬県へ。一六日開会式、翌日から県内の各競技場で熱戦を繰り広げた。来年度は福岡県で開催される。

第三三回

全国老人クラブ大会千葉大会

一月一〇日～一二日開催。初日の研究部会は約二〇〇〇人、翌日の式典には約三三〇〇人参加。研究部会は千葉市内各会場に別れて開催した。総会、アトラクション、式典が行われ、式典において全老連会長表彰があり、当連合会では次の団体が受賞した。



優良老人クラブ連合会

稲毛区老人クラブ連合会

代表 小川 敏 (会長代行)

優良老人クラブ

長沼若葉会 (稲毛区北地区)

代表 岩田 勇 (大会記事別記)

ふれあいの店

一月二〇日～二二日、ラパーク千城台ショッピングセンターで開催。この事業は千葉市から委託を受けての実施なので非会員も参加でき、高齢者が趣味や特技を生かして、個人やグループで制作した手作りの作品を展示即売する。開店前から入口で待っている人も多く、人気商品はすぐに売り切れとなった。

平成一六年度

第二回女性リーダー研修会

一月二三日、市役所八階正庁において開催。

女性リーダーや役員、地区老連会長等二五〇名参加。全国老人クラブ千葉大会の研究部会に参加した女性委員が第一研究部会から第七研究部会について各一名が発表した。

指導者研修会

一月二五日、千葉市文化センターで開催。演題は「魅力ある老人クラブづくり」及び「美しく生きる」講師は山本 幸氏 (前千葉日報社社長)

老人クラブから生涯学習クラブへ、広報誌活用で新会員加入促進、幸福の条件、人間の限界寿命、美しく生きる方法など豊かな経験と知識を基に講演された。

新年会

一月一八日、ホテルグリーンタワー千葉で、一六九名出席のもと開催。会長、市長、市議会議長、社会福祉協議会会長のあいさつの後、鏡開きが行われ宴会に入る。

踊りやカラオケ、ビンゴゲーム等で盛り上がり、お互いの懇親を深め、古川光一保健福祉局長の万歳三唱で和やかな雰囲気の中、閉会となった。

ビッグニュース

★スカイクロス大会でホールインワン達成

昨年十月二十五日、菅田公民館で行われた、緑区老連第一回スカイクロス大会で、古市場町ことぶき会から参加した飯笹トミ子さん(62)が一投目でホールインワンを達成し、参加者から祝福されました。



「会長さんから誰でもできるからといわれて参加して練習をしてみると、ゲートボールより簡単だと思いました。まさか一投目がホールインワンになるとは信じられない気持ちでした。周りから「すごい」といわれ、その気になりました。と飯笹さんは嬉しそうです。



俳句

長洲 二水会 新年句会

千支の酉初夢も見ず朝寝坊

門松や泣き笑ひして共白髪

年の瀬の夜半まで灯る菓子問屋

手術終へしみじみと見る冬椿

手袋をはずし手を組む逢瀬かな

初富士や幸先良しと思ひたり

手袋を噛んで脱ぐ娘の片えくぼ

幼な児の幸多かれや初詣

こがらしに紐付き手袋孫の手に

賀に集ふ同胞齡重ねけり

小川 シズ

沖野 正作

齋藤 達

齋藤 智子

篠崎 敏子

柴崎 羊子

野口 清子

林 唯夫

本吉 花

山田 俊雄

むつみ鶴の会

初東風や港見おろす風見鶏

鶴鳴かぬ落人の里小豆粥

狐火の裂けたる口に鳥居越す

高橋 平一

短歌

清里の宿に笹竹かざられて

吾も願ひぬ七夕の会いに

早く来よ眺めは更に良しと言う

娘は声そろへ吾を呼ぶなり

中央区港町人減りゆきてバス路線の

ひとつ無くなり彼岸花咲く道

港町第二君待会 山田 登代

元旦は冬の陽映えて

娘夫婦と神まいりする

心たのしく

港町第一君待会 田村富美子

広報部会



'05 01 07

次号予告

特集「私たちのクラブ自慢」

手記「介護の日々」

文芸 随時受付

次号は六月発行です。

広報部

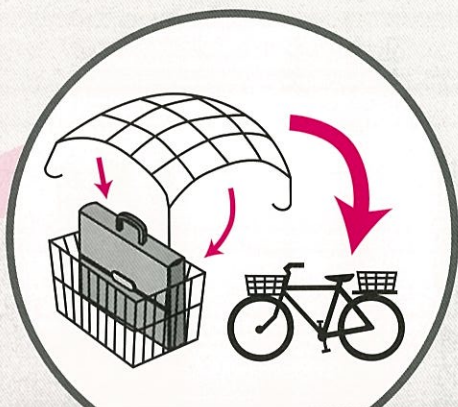
ひったくり被害急増!!

～あなたのバッグは、ねらわれている～

最近、**女性をねらったひったくり事件**が多発しています。

「他人事」と思っているあなた…要注意!

被害にあわないためのポイント



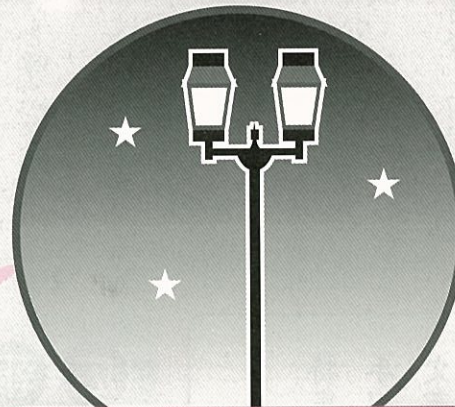
「防犯ネット」



バックは車道の「反対側」



バックは「たすきがけ」



「明るい道」

千葉県警察

編集後記

◆全国老人クラブ千葉大会は成功裡に終わった。何を得たか検証はこれからになる。

◆新潟・中越地震やスマトラ沖大地震に自然の恐さを思い知らされた。あの惨禍は60年前

と重なり、胸が疼く。

◆今年は戦後60年、私たちは「語り部」の役割を担っている。

◆次号の特集は「私たちのクラブ自慢」楽しみである。

(岩)